

ノブドウ

(学名: *Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*)

[ブドウ科 ノブドウ属]



▲ノブドウの果実



▲1つの個体から採取した違った形をした葉

秋になると道端や林縁に青や紫などカラフルな1cmほどの果実をつけた植物が目につくようになります。これはノブドウの果実です。ノブドウは、南千島・北海道～琉球の山野で一般的に見られ、朝鮮半島や中国まで分布するつる性の亜低木です。葉は掌状の形で3~5裂に深く切れ込み、先がとがっています。また、葉の変化が大きく、1つの個体の中でも様々な形の葉を見ることができます。葉と対生するように2~3に分岐する巻きひげを樹木やフェンスなどに巻つけそれらを覆うように繁茂します。7~8月に白い小さな花を咲かせ、秋になると白色や空色～紫色に果実が色づいてきます。その中にはきれいな球形の物に加えて不規則にゆがんで他と比べるとひとまわり大きいものも確認することができます。これらの多くは小さな虫に寄生された寄生果です。

只見町では、ドクボッコ・ブスノミと呼ばれ、その果実は薬草として利用されています。乾燥した果実を焼酎に漬けた液を盲腸の時に患部にぬると痛みがとれる、はれものに果実をつぶして付けると良いとされるなど利用されてきたそうです。

詳しくは、
只見町プラセンター
までお問い合わせ
ください

企画展

平成30年度只見ユネスコエコパーク関連事業
自然環境・社会文化基礎調査(古民家実態調査)成果報告展

「只見の古民家は何の木でつくられているのか？」

—その建築様式と使用木材種—

と き:10月31日(水)まで開催中

ところ:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー